

「豊橋市の環境に関するアンケート」調査結果について

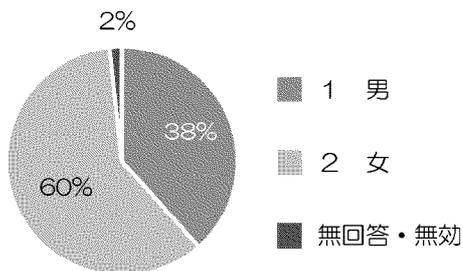
1 調査概要

| | |
|-------------|---------|
| ○調査対象数（郵送数） | 1,500 件 |
| ○回収数 | 599 件 |
| ○回収率 | 39.9% |

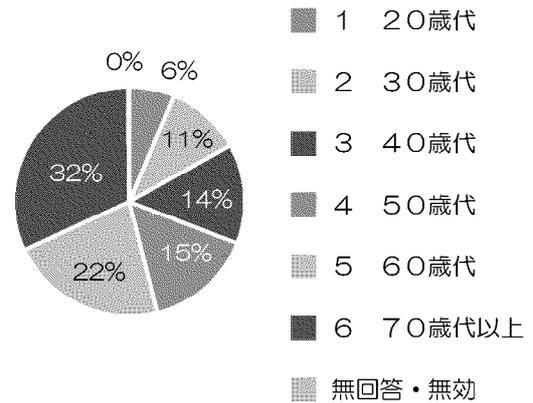
2 調査結果

(1) 回答者の基本的事項

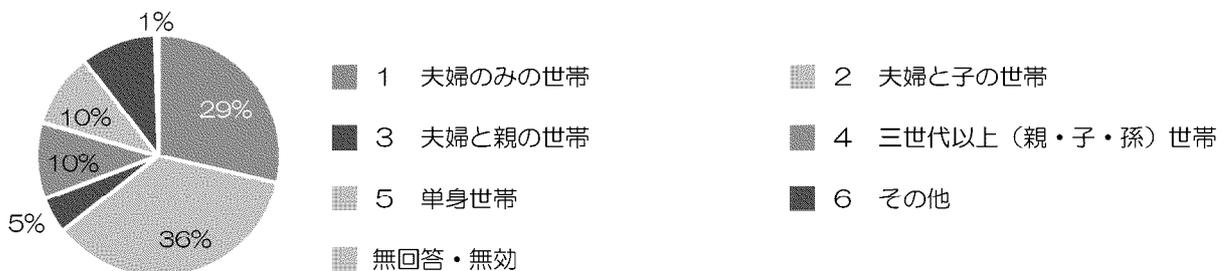
①回答者の性別



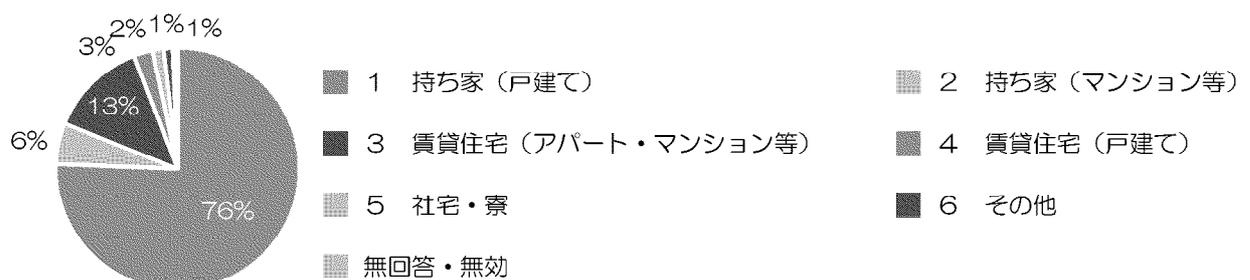
②回答者の年齢



③回答者の家族構成

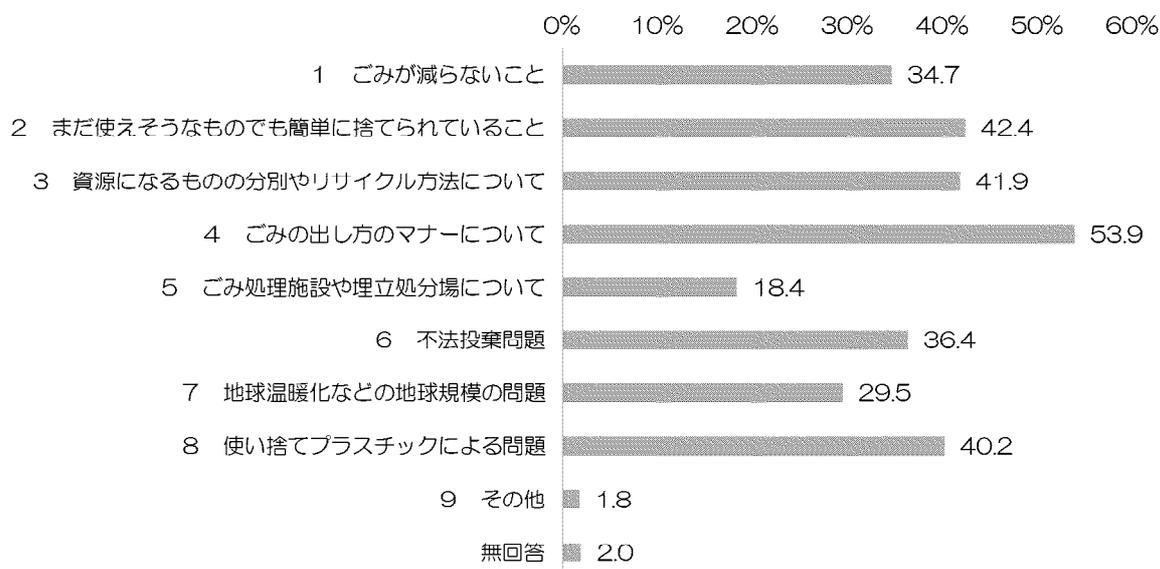


④回答者の居住形態



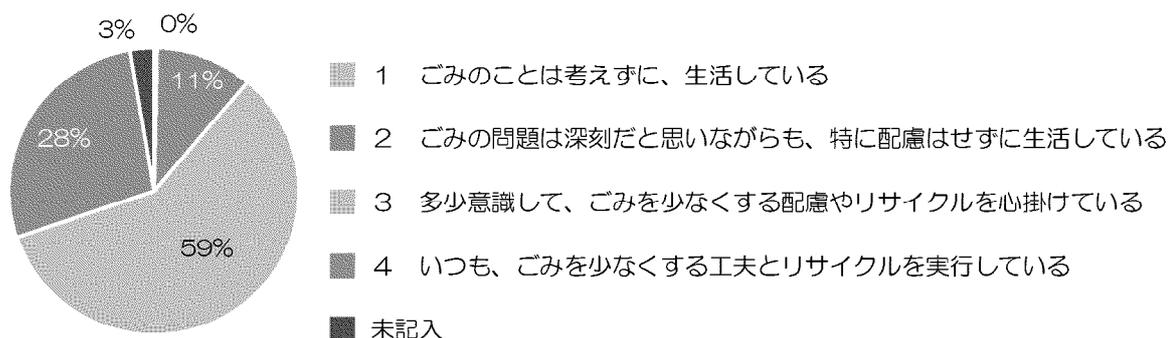
(2) ごみ処理に関する質問

問1 ごみ問題のなかで関心のあることについて【あてはまるもの全て】



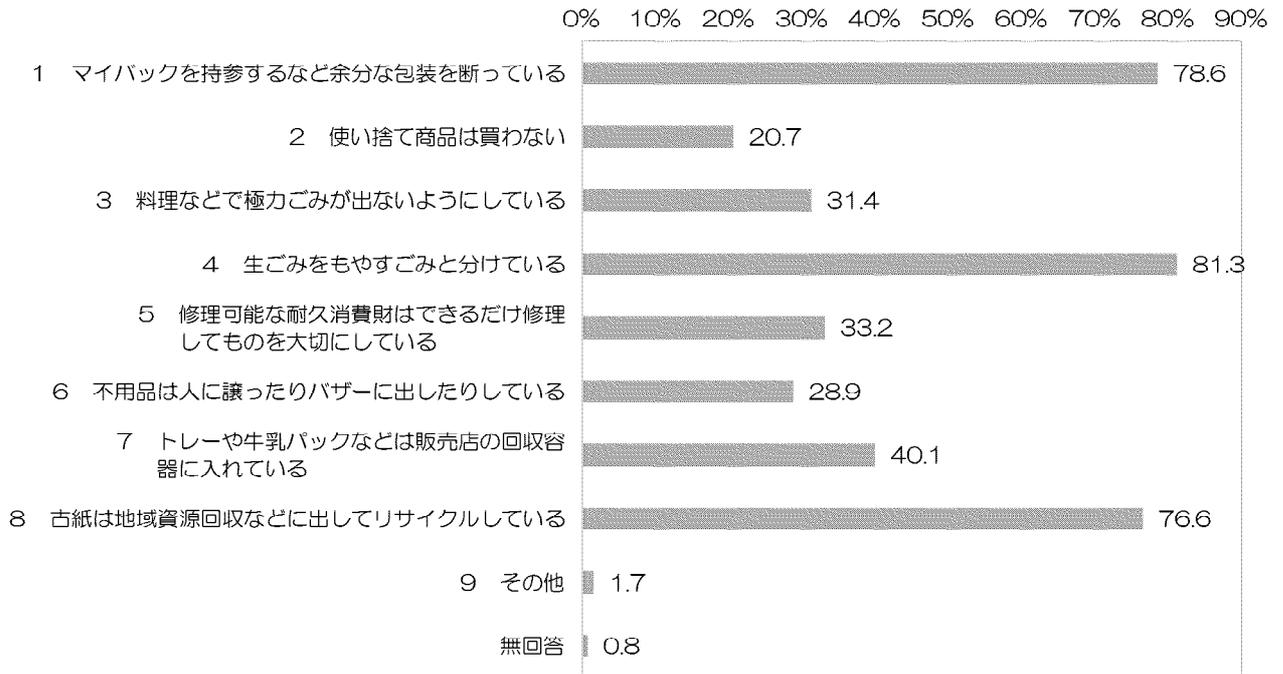
「4. ごみ出しのマナーについて」と答えた人が5割超と多く、ごみステーション等の身近な場面で発生する問題に関心を持つ人が多い。続いて、「2. まだ使えそうなものでも簡単に捨てられていること」や「3. 資源となるものの分別やリサイクル方法について」が多く、リサイクルやリデュースに対する意識が高いことがうかがわれる。また、最近話題となっている使い捨てプラスチック問題に対する関心も高くなっている。

問2 日頃のごみとの関わりについて【あてはまるもの1つ】



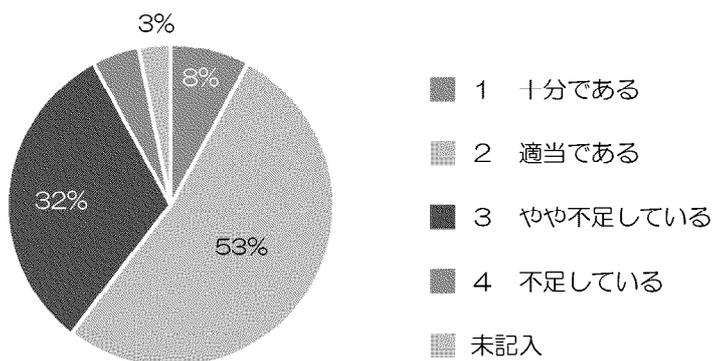
「3. 多少リサイクルを意識している」と「4. いつもリサイクルを実行している」を合わせると、8割超の人がゴミ減量やリサイクルに前向きであるといえる。一方で、約7割の人が意識が高いとまではいえず、更なる意識向上と行動へ導く働きかけが必要である。

問3 ごみ減量とリサイクルに対し行っている取組について【あてはまるもの全て】



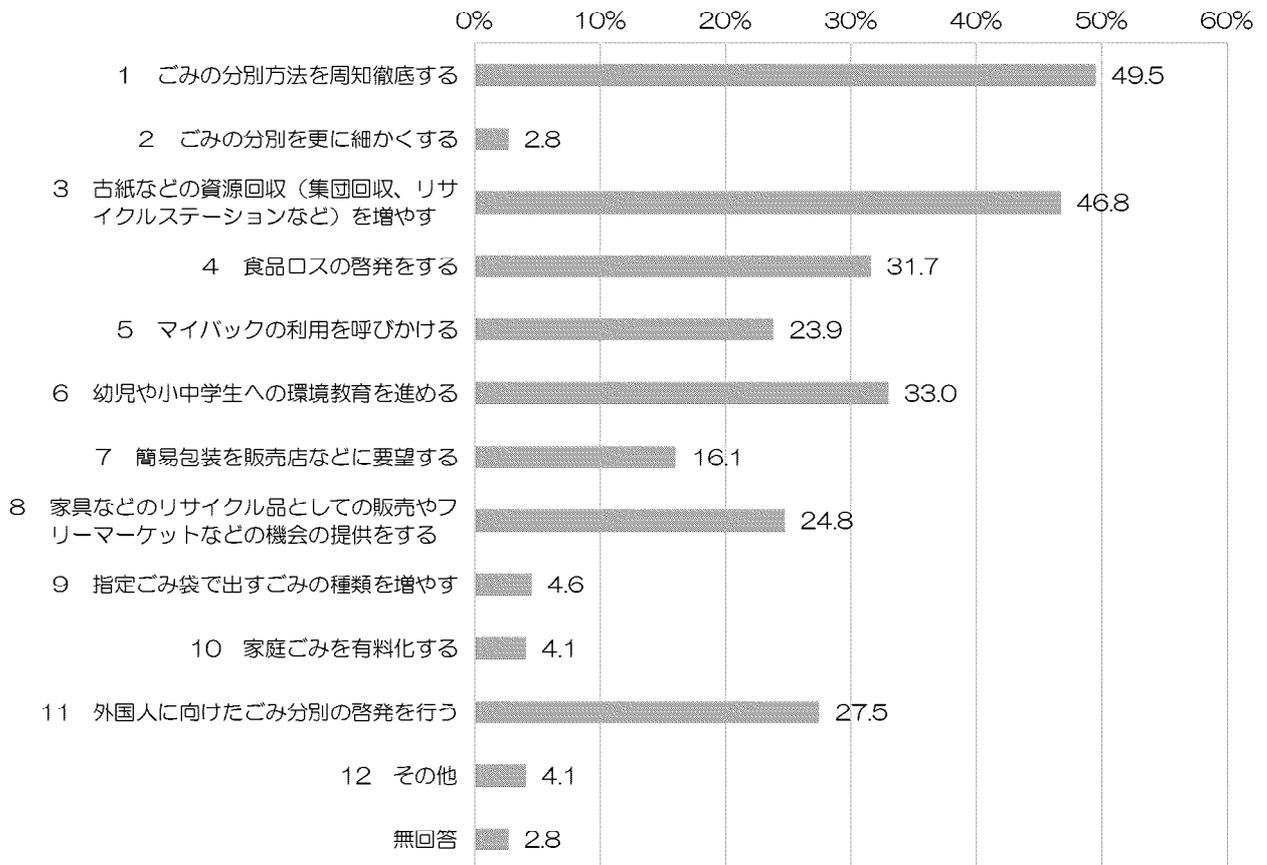
「4. 生ごみをもやすごみと分けている」、「8. 古紙は地域資源回収などに出してリサイクルしている」と答えた人が約8割あり、生ごみや古紙の分別が着実に行われていることがうかがえる。また「1. マイバックを持参する」が約8割と高い水準で推移しており、マイバックの利用が定着していることがうかがえる。

問4 ごみ減量への取組は十分か【あてはまるもの1つ】



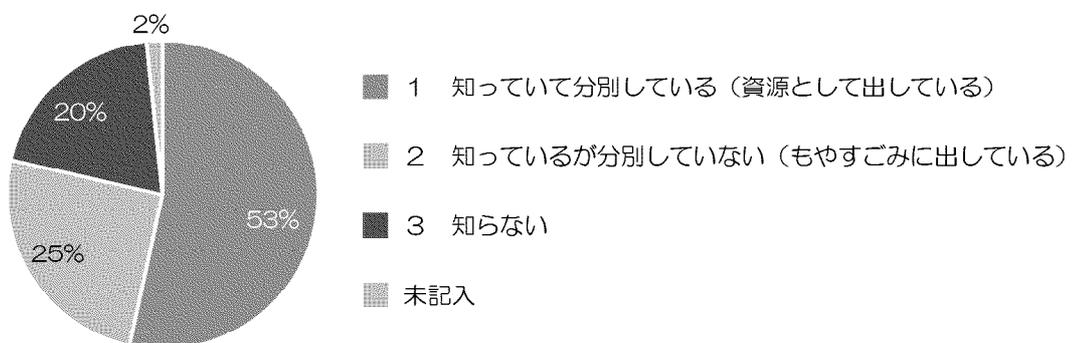
「1. 十分である」「2. 適当である」と答えた人が6割を超えている。本市のごみ減量策やリサイクル策に満足している人が多いことがうかがえる。しかし、約3割の人が不足していると感じており、さらなる取組が必要だといえる。

**問4で「やや不足している」、「不足している」を選んだ人
どんな取組の充実が必要か【主なもの3つ】**



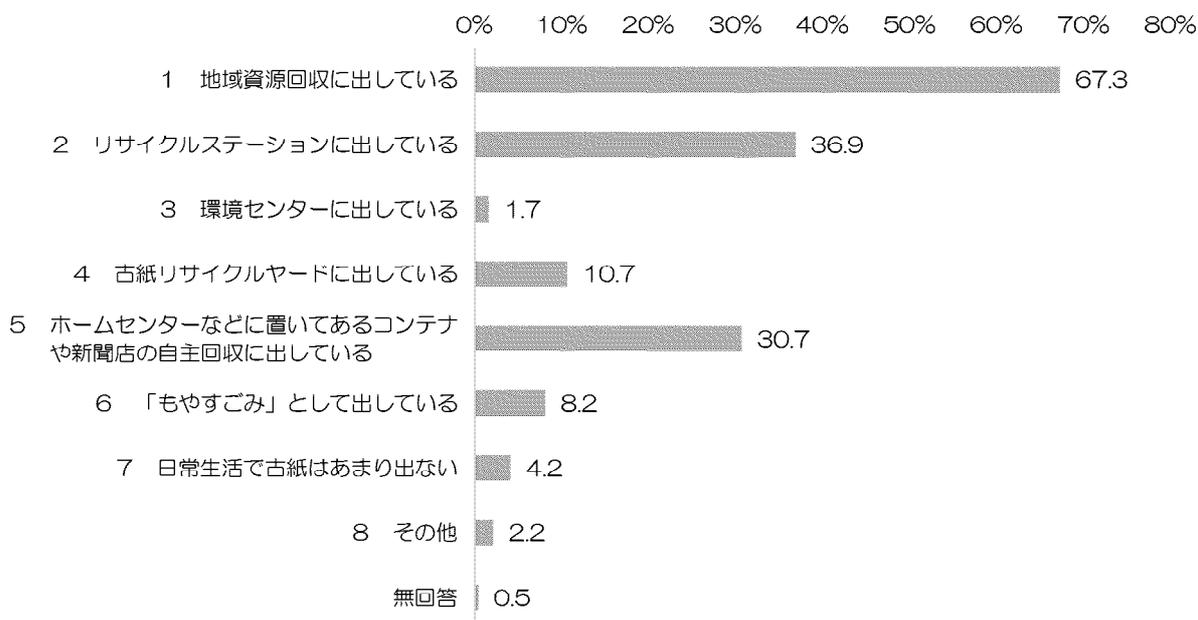
「1. ごみの分別方法を周知徹底する」と答えた人が約5割と最も多い。また「3. 古紙などの資源回収を増やす」と答えた人が次いで多く、古紙排出先の確保を進めているが、十分とは言えないと感じていることがうかがわれる。

問5 雑がみの認知度について【あてはまるもの1つ】



約8割の人が「雑がみ」を認知しており、ここ数年の市民への周知啓発活動に対する一定の成果が見られた。一方で、雑がみを古紙として分別していない人が約4割を占めており、分別していない人への働きかけが必要である。

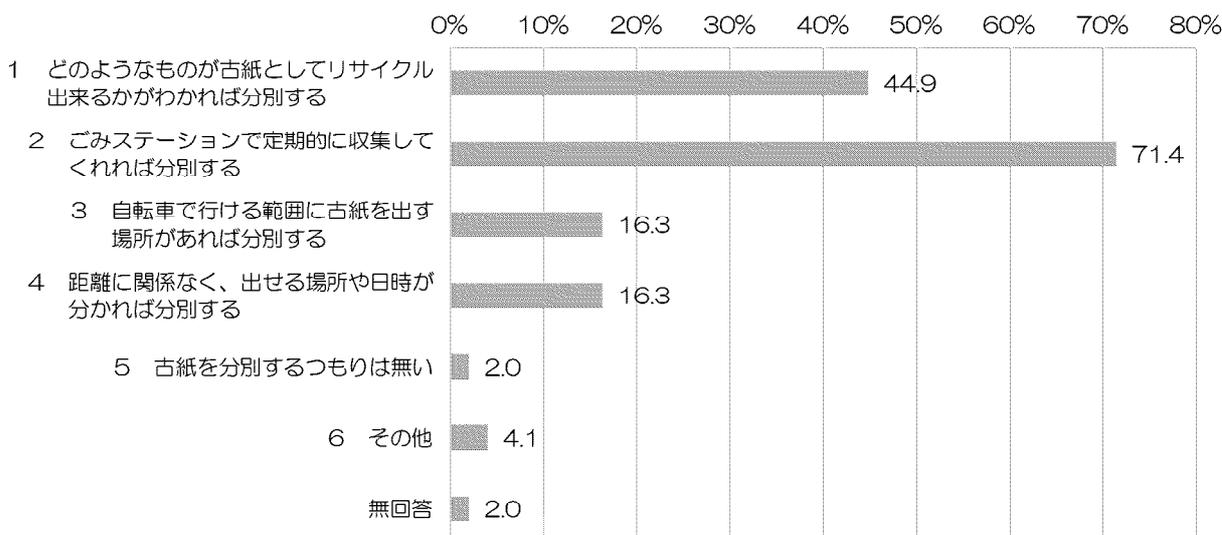
問6 古紙の処分の仕方について【主なもの2つ】



「1. 地域資源回収に出している」と答えた人が圧倒的に多く、地域資源回収が市民に根付いていることがうかがわれる。

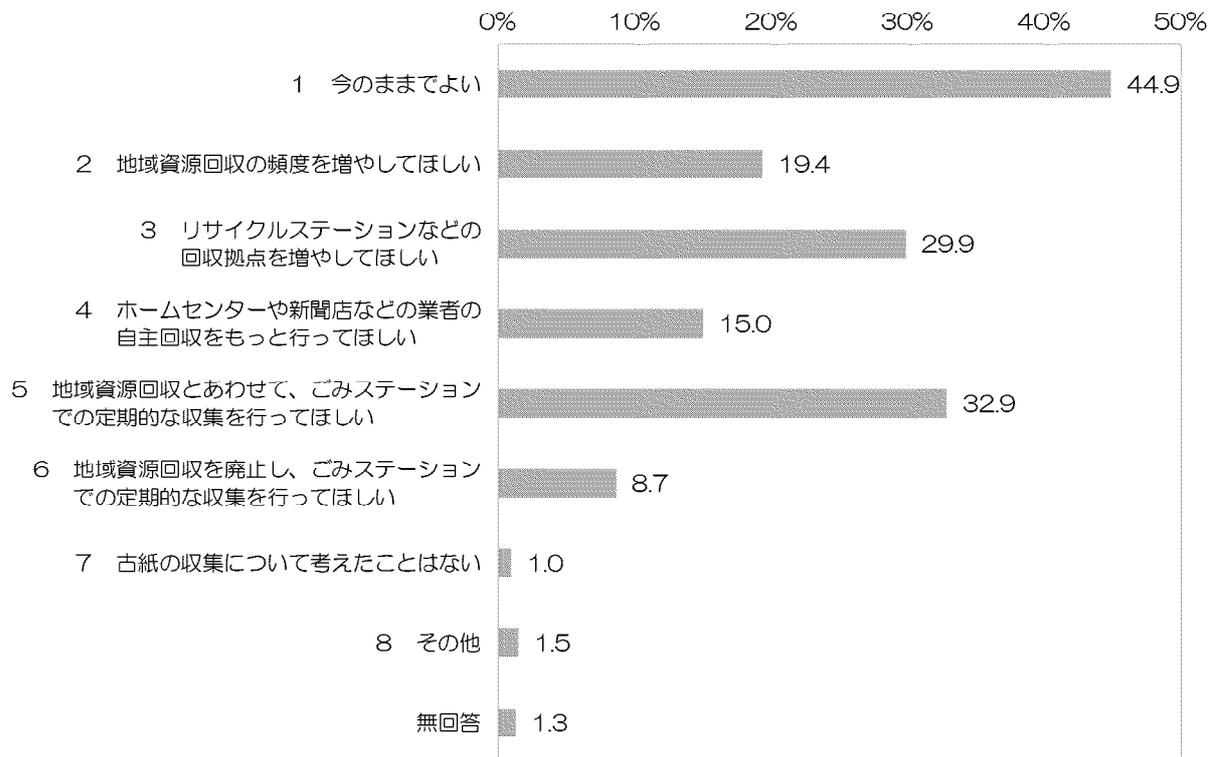
問6で「もやすごみ」として出しているを選んだ人

どうすれば古紙を資源として分別できるか【主なもの2つ】



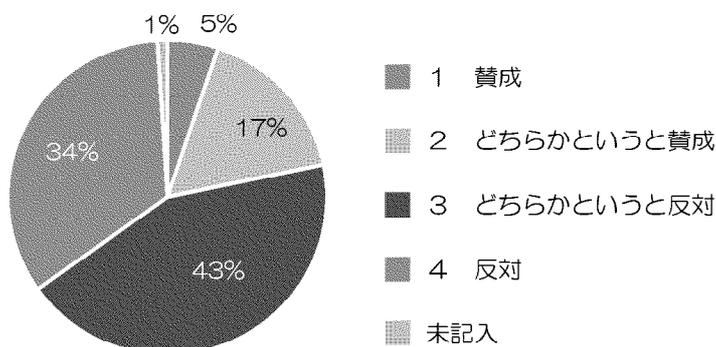
資源である古紙をもやすごみとして出している人の中で、約7割の人がステーション収集（行政回収）を望んでおり、検討が必要である。また、約4割の人が何が古紙かが分かれば分別すると答えており、古紙の分別に関する周知啓発を推進する必要がある。

問7 古紙の収集方法について【あてはまるもの全て】



「1.今のままでよい」と答えた人が約4割を占める一方、「5.地域資源回収とあわせてごみステーションでの定期的な収集を行ってほしい」と答えた人も3割を超えており、検討が必要である。

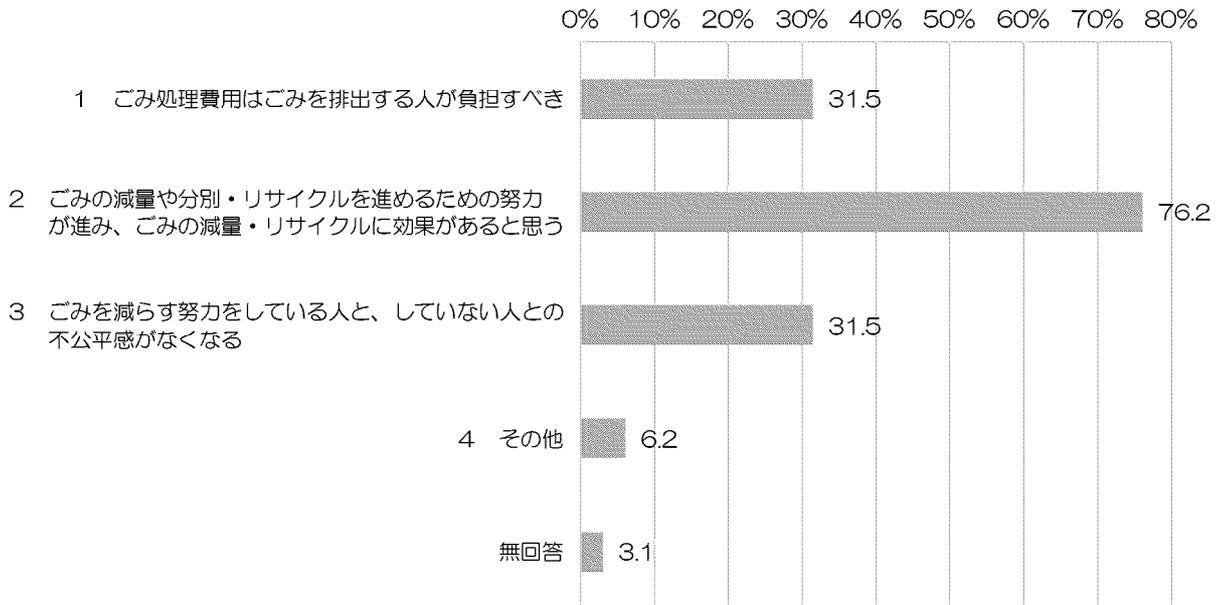
問8 家庭ごみの有料化について【あてはまるもの1つ】



「3.どちらかという反対」「4.反対」と答えた人が合わせて約8割と大半を占め、多くの市民が家庭ごみの有料化には否定的な考えを持っていることがうかがえる。

問8で「賛成」、「どちらかという賛成」を選んだ人

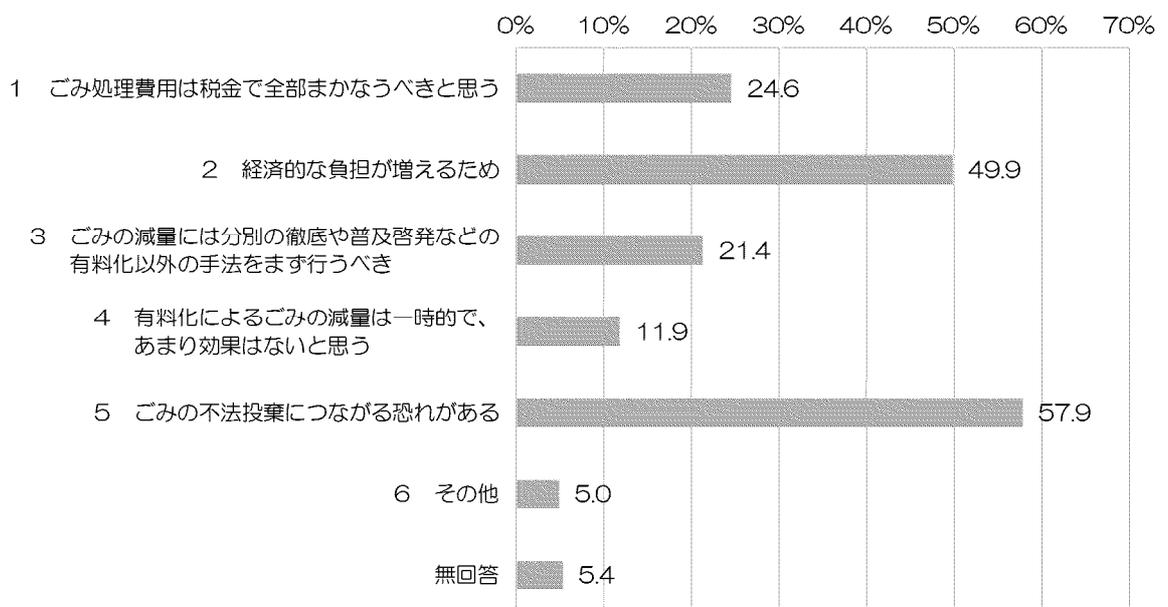
そう思うのはどうしてか【主なもの2つ】



家庭ごみの有料化について賛成の意向を示した約2割の人のうち、「2. ごみの減量・リサイクルに効果がある」と答えた人が約7割にのぼる。

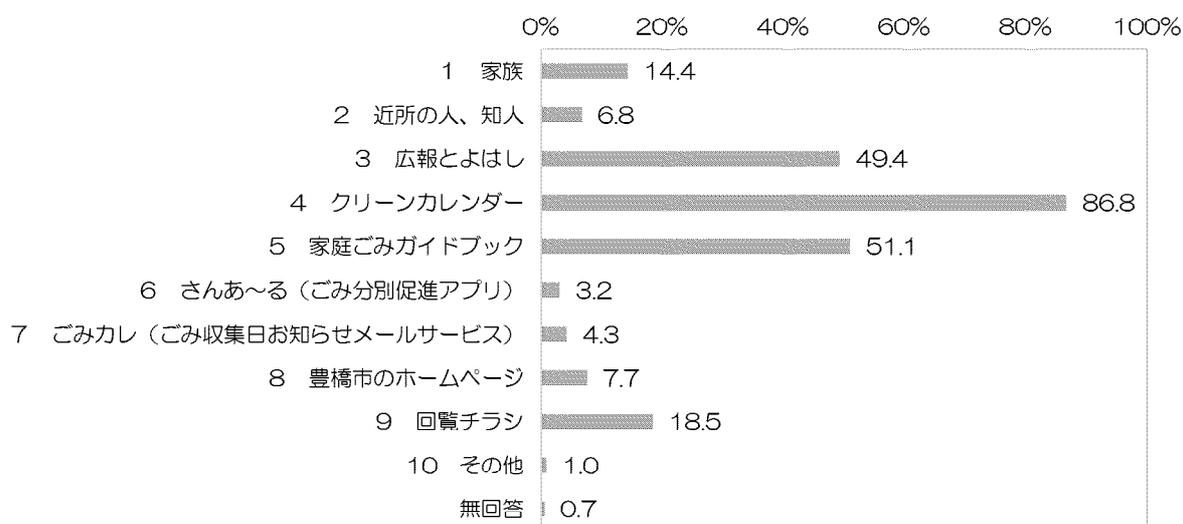
問8で「どちらかという反対」、「反対」を選んだ人

そう思うのはどうしてか【主なもの2つ】



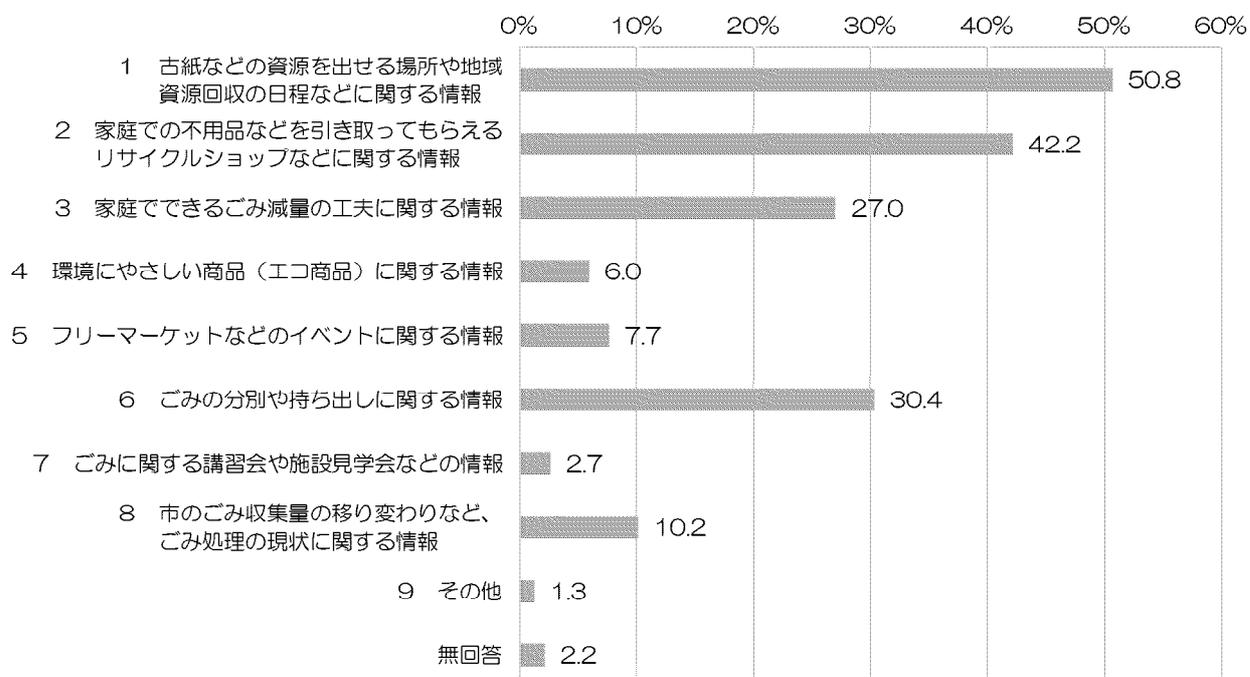
反対する理由として「5. 不法投棄につながる恐れがある」と答えた人が約6割と多く、環境の悪化を不安視していると考えられる。また、「2. 経済的な負担が増えるため」が次いで多く、経済的な負担が増えることを不安視していることがうかがわれる。

問9 ごみ分別ルールの入手方法について【あてはまるもの3つ】



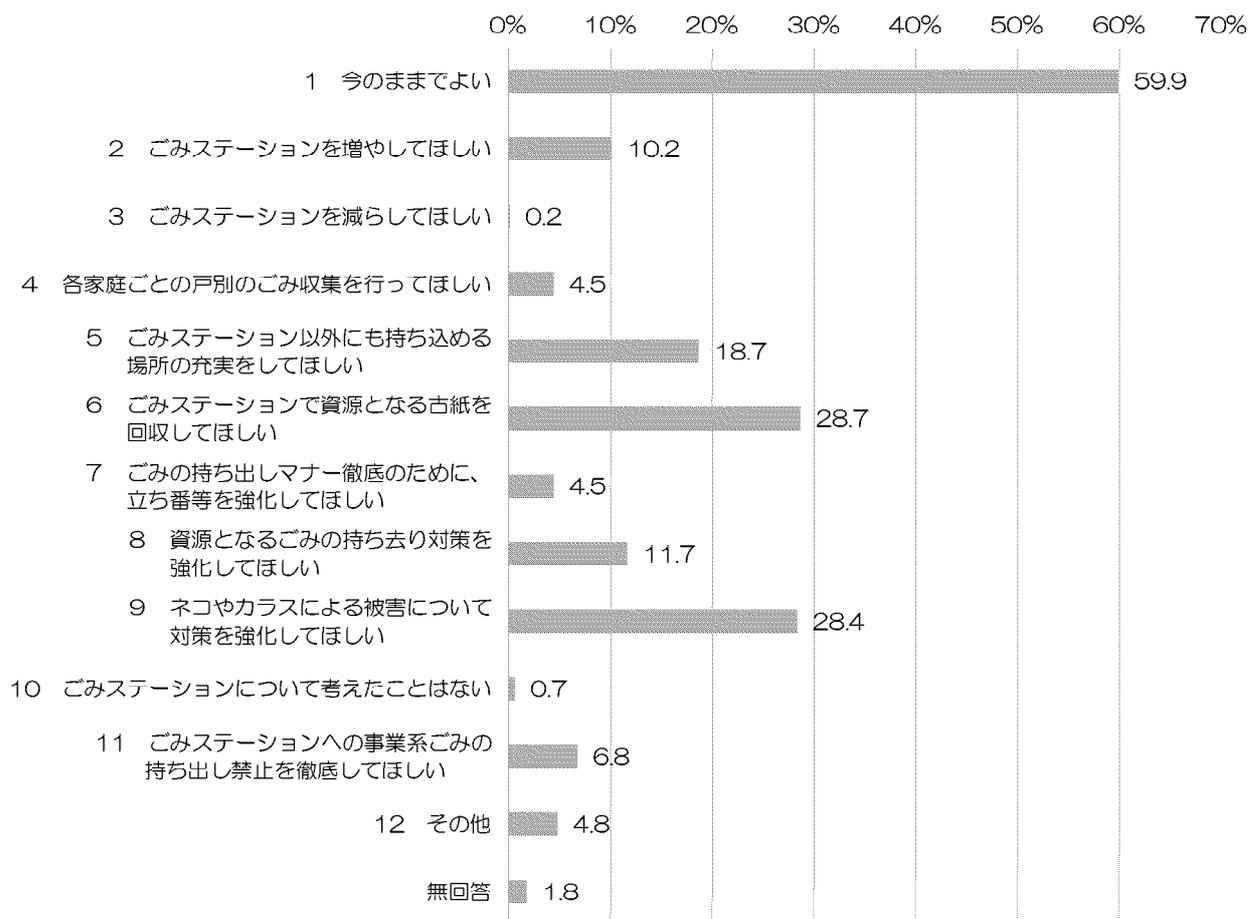
大多数の人が「4. クリーンカレンダー」と答えており、その他ガイドブックや広報誌、回覧チラシ等の紙媒体での情報収集が多くを占めている。一方で「6. さんあ〜る」などの電子媒体は1割以下にとどまり、未だに紙媒体での情報提供の有効性がうかがわれる。

問10 今後必要だと思う情報について【主なもの2つ】



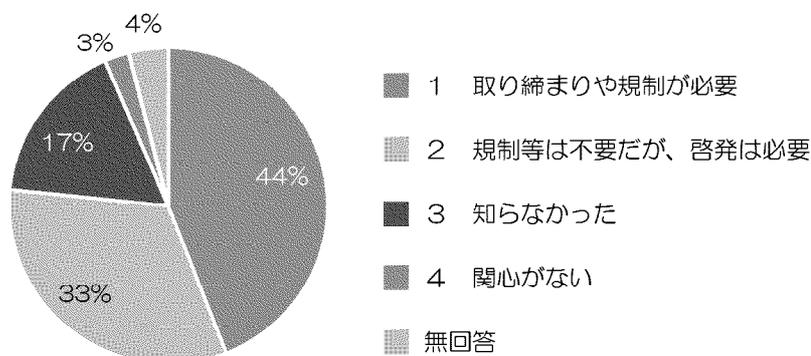
「1. 古紙などの資源を出せる場所や地域資源回収に日程などに関する情報」と答えた人が最も多く、約半数を占め、古紙のリサイクルに関する関心の高さがうかがわれる。

問 11 ごみステーションでのごみ収集について【あてはまるもの全て】



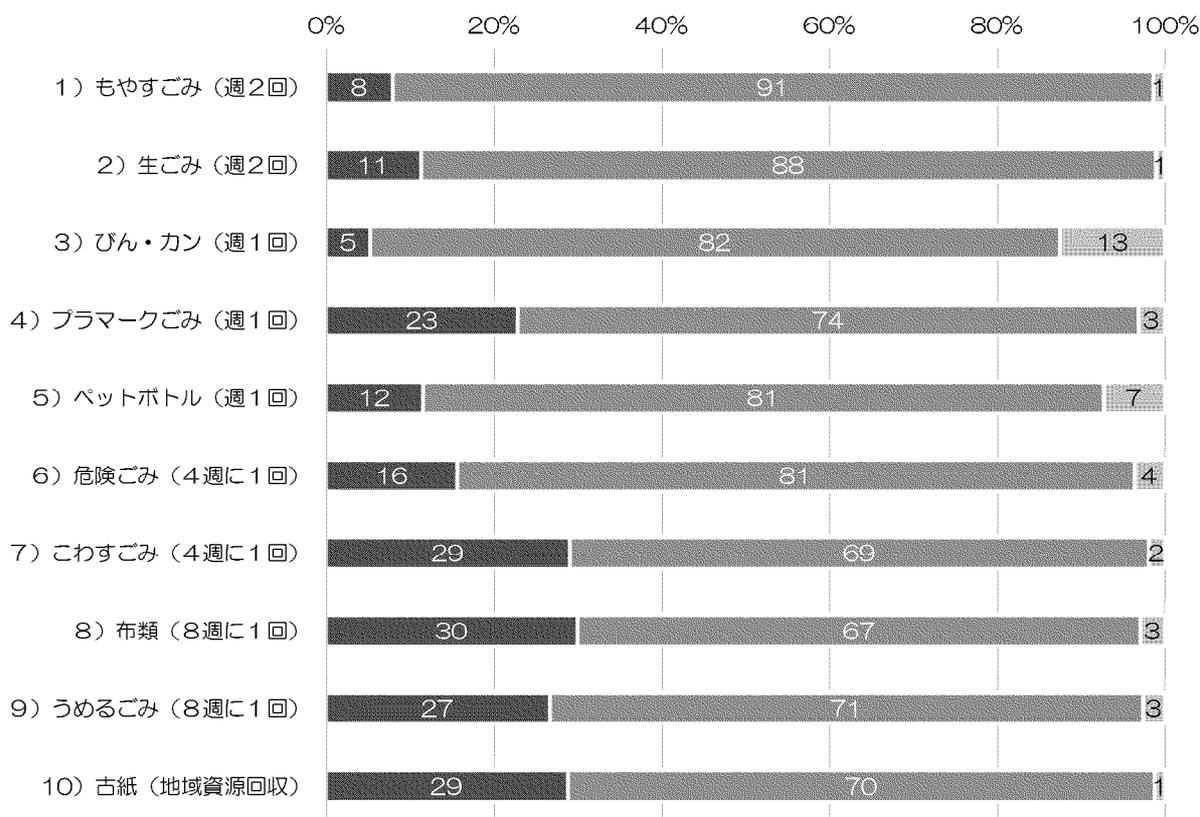
「1.今のままでよい」と答えた人が最も多く、約6割と高くなっている。一方で、「6.ごみステーションで古紙を回収してほしい」と答えた人が約3割を占め、一定数の人が古紙のステーション収集を望んでいることがうかがわれる。

問 12 ごみステーションの不適切な利用について【あてはまるもの1つ】



「1.取り締まりや規制が必要」|2.規制等は不要だが、啓発は必要」と答えた人が合わせて約8割と大半を占め、多くの市民が不適切な利用について、関心を持ちつつ改善を求めていることがうかがわれる。

問 13 ごみの収集回数について【すべての項目であてはまるもの1つずつ】



■ 1. 少ない (増やしてほしい) ■ 2. ちょうどよい ■ 3. 多い (減らしてもよい)

「10」古紙 (地域資源回収) について、約3割の人が収集回数を増やしてほしいと答えており、古紙の資源化に対する意識の高さがうかがわれる。

(3) 自由意見【主なもの】

- 古紙のステーション収集 (行政回収) をしてほしい。
- 外国人へのごみ分別、ゴミ出しマナーの周知啓発を行ってほしい。
- ごみステーションでのカラス対策を強化してほしい。
- ごみステーションからの資源物の持ち去りへの対策をしてほしい。
- 高齢者にとってはごみ分別がわかりづらく大変。